

篠山市

人口ビジョン /

まち・ひと・しごと創生総合戦略



篠山市
平成28年3月

篠山市人口ビジョン

策定の意義

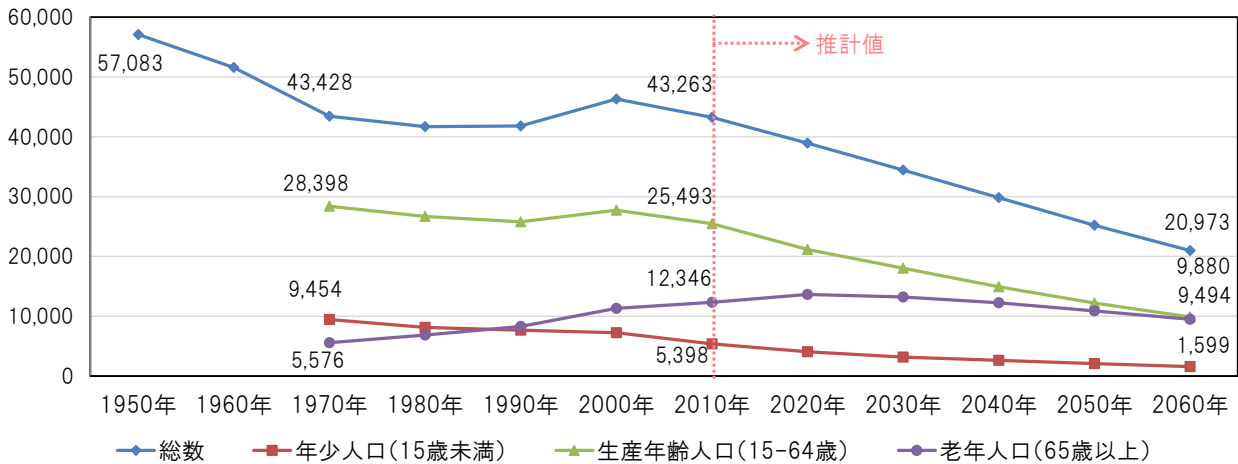
篠山市人口ビジョンは、市民と行政が今後の篠山市の人口減少問題や地域課題等を共有し、市民が主体的に地域課題の解決に向けた行動を起こすことを目的として策定するものです。当ビジョンにおいては、人口の現状分析や市民、特に若い世代の結婚・出産、就労等への意向を踏まえ、人口減少の要因を整理するとともに、それらの要因を解消した場合の推計人口を、篠山市の将来人口展望として示しています。

篠山市の人口動向

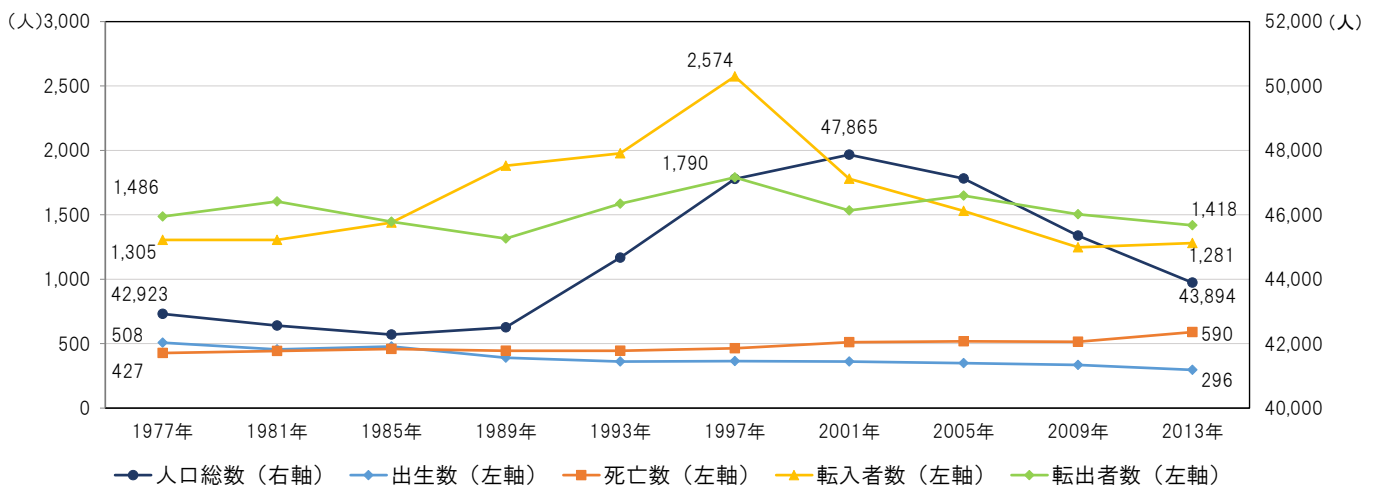
◎篠山市人口動向のポイント

- ・総人口は1980年以降増加傾向にあったものの、2000年をピークに減少に転じ、その後も減少予想。
- ・1985年～2001年頃までは転入超過傾向であったが、近年は転出超過傾向。転出者の年齢層は10歳代後半～20歳代前半に多い傾向にあり、転入者については、子育て世代(30歳前後)が少なく、高齢層(60歳前後)が多い。(詳細は本編を参照)
- ・合計特殊出生率は近年減少傾向にあり、2008～2012年は0.12ポイント上昇し、兵庫県より0.1ポイント高い1.5となっている。
- ・高齢化の進展を受けて、自然減少の傾向は年々増大している。

◎総人口及び年齢3区分別人口の動向



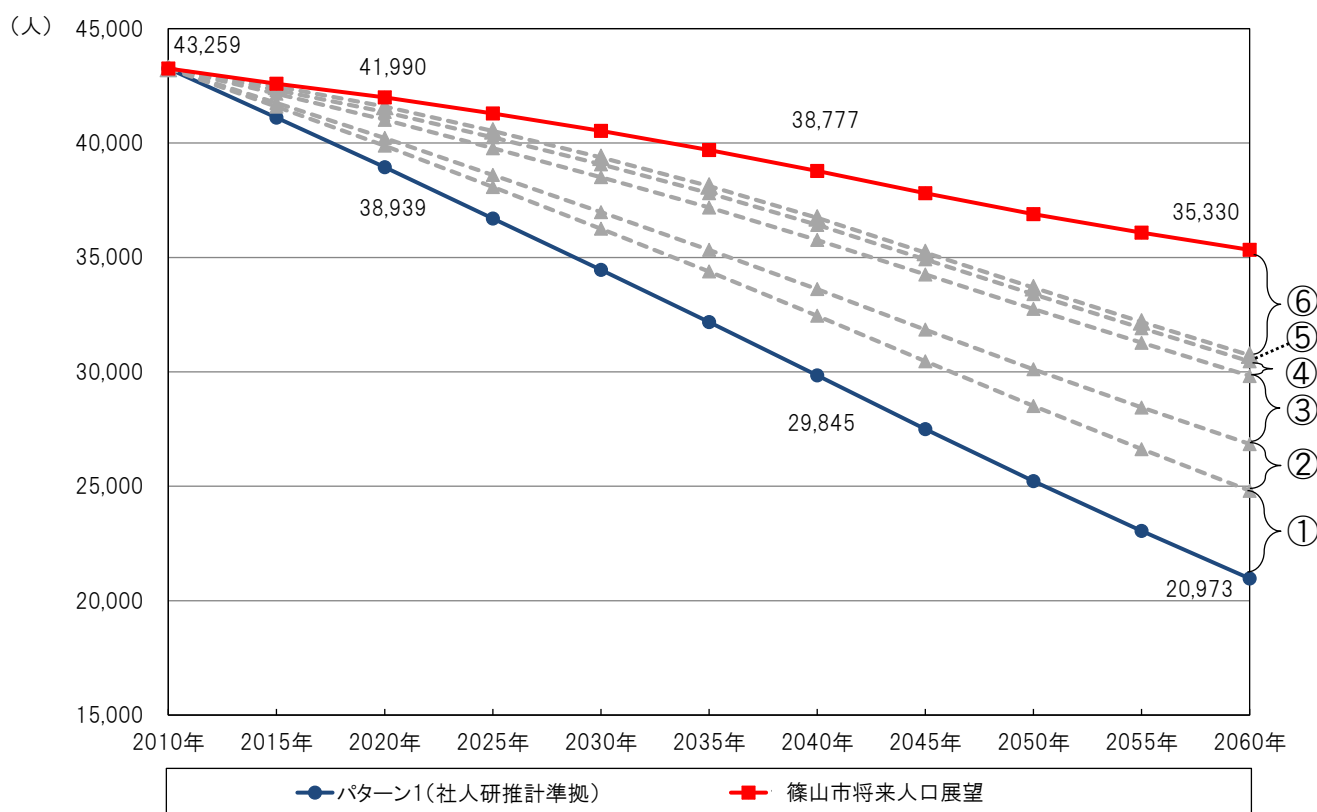
◎社会増減数(転入・転出者)、自然増減数(出生・死亡者)の動向



篠山市の将来人口展望

将来人口の展望にあたって、本市の人口動向を踏まえて、現在の人口減少傾向を改善させるための「6つの視点」を設定し、それぞれに対して効果的な施策を実施したと想定します。それらの施策効果として具体的な仮定値を設定し、篠山市の将来人口展望値を算出すると以下の通りとなります（算出根拠は以下表の通り）。人口減少の抑制に関する施策を講じなかった場合の仮定値（パターン1：社人研推計値）と比較すると、将来人口展望値では、2060年時点で約1.4万人の人口減少抑制効果が現れていることが分かります。そこで、2060年における篠山市の将来人口を35,000人程度と展望します。

◎篠山市将来人口展望



◎人口減少抑制効果の内訳

- 視点①：若い世代にとって魅力ある雇用の場の創出による、若者の転出抑制
 - …▶ 高校・大学卒業世代のうち約半数が転出せず、市内に定住すると仮定
- 視点②：若者世代をターゲットとした移住施策による、若い世代のU・Iターン促進
 - …▶ 30人/年の若者がU・Iターンで市内に転入すると仮定
- 視点③：子育て世代施策の充実等による、子育て世代のU・Iターン促進
 - …▶ 2015年時点で約50人/年の子育て世代が市内にU・Iターンで転入すると仮定
- 視点④：元気な高齢世代をターゲットとした移住定住施策による、移住・定住の促進
 - …▶ 2015年時点で約50人/年の高齢世代が市内にU・Iターンで転入、定住すると仮定
- 視点⑤：市民主体の健康づくりによる健康寿命の延伸
 - …▶ 高齢世代の生残率が平均寿命日本一の長野県の水準まで上昇すると仮定
- 視点⑥：子育て支援の充実による出生数の増加促進
 - …▶ 出生数が毎年約310人に維持されると仮定

篠山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

策定の意義

篠山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）は、「篠山市人口ビジョン」で示した地域の将来人口展望を踏まえ、今後5か年のまち・ひと・しごと創生に関する施策の方向等を提示するものです（計画期間：平成27（2015）年度～平成31（2019）年度）。市民や事業者、行政等が一体となって、人口減少の抑制に向けた取組を進めるためのガイドラインとして活用します。

基本理念

篠山市は、恵まれた自然・歴史文化を有する「創造農村」であり、それでいて京阪神に近接し住みやすく、緊密な地域コミュニティを有する、優れた暮らしの環境があるまちです。総合戦略においては、第2次篠山市総合計画の「幸せは篠山の暮らしの中にある」という考え方や、近年の日本遺産の認定やユネスコ創造都市ネットワークへの加盟などに代表される、農の営み、まちなみ、デカンショ節、丹波焼など文化や自然環境を大切に育み、継承しながら新たな発展を模索する姿勢を受け継ぎ、日本の原風景と誇れる景観やふるさとの豊かな自然を守り、創造的な農の都として「篠山」のブランドに誇りを持ち、「篠山」でこそ実現できる市民一人一人の幸せを未来へつないでいくことをめざし、基本理念を以下のとおり設定します。

篠山の希望を未来につなぐ

－「篠山」だからこそ実現できる創造的な農村の幸せ－

篠山市がめざす、市民が「幸せ」と感じられるまちづくりとは、地域のつながりが希薄で、利便性や経済性を追求した都市的まちづくりではなく、「農」を基盤として「歴史」や「文化」、「自然環境」や「地域のつながり」を大切にしたまちづくりです。

篠山市内19地区においてまちづくり協議会や自治会など、市民主体のそれぞれの取組を積み重ね、多様な取組を地域内・地域間で共有することで、篠山市のまち・ひと・しごとの、創造的な循環を生み出し、地域の実情に即した市民の幸せな生活を実現します。これらの取組を積み重ねた成果として、全国に、世界に向けて「21世紀の持続可能な都市発展のモデル」となることをめざします。

基本理念にもとづき、以下4つの基本目標を設定し、篠山市のまち・ひと・しごとの創生に向けて、戦略的な施策を実行します。

1. 暮らしに結びついた創造産業を興す
2. 日本遺産の魅力を活かし新しい人の流れをつくる
3. ふるさとの豊かな環境の中で子育ての文化を育てる
4. 安心して豊かな暮らしを自分たちの手で創る

篠山市人口ビジョンと総合戦略の関係性

篠山市総合戦略の策定にあたって、篠山市人口ビジョンにおける分析の結果明らかとなった「人口減少の要因」、及び市民アンケート等による「人口減少の背景」の分析を踏まえて、人口減少抑制に向けた「6つの視点」を設定し、それらに対応するように総合戦略の「4つの基本目標」を掲げています。

◎人口ビジョンにおける人口減少要因の分析

人口の大幅な減少

【将来人口推計パターン1】2040年→約13,000人（31.0%）減、2060年→約22,000人（51.5%）減

社会減の拡大

2004年減少に転じ、以降一貫して減少傾向が継続

自然減の拡大

1986年以降、減少数はおおむね拡大傾向。

若い世代を中心とした転出超過

1990→1995→2000年には生産年齢人口の転入超過数が15→20歳～19→24歳世代の転出超過数を上回り、社会増傾向であったが、2008年には約300人の社会減小

死亡者の増加

1977年以降増加傾向 2013年時点で600人

出生数の減少

1977年以降減少傾向 2013年時点で300人

【要因1】
進学・就職による転出増

【要因2】
子育て世代の転入減

【要因3】
高齢者の増加

【要因4】
晩産化・出産子数の減少

◎市民アンケート等による人口減少の背景分析

- ・まちの活力の低下
- ・若者にとってのまちの魅力の低下等

- ・雇用のミスマッチ
- ・若者にとって魅力ある雇用先の不足

- ・高齢世代のU・Iターンが多い
- ・高齢者にとって住みよい環境の整備が必要

- ・子育てに対する不安
- ・安定した雇用先の不足

◎人口減少抑制に向けた6つの視点

【視点①】
雇用の場の創出による若者の転出抑制

【視点②】
移住関連施策による若者のU・Iターン促進

【視点④】
移住関連施策による高齢世代の移住定住促進

【視点⑥】
子育て支援の充実による出生数の増加促進

【視点③】
子育て施策充実等による子育て世帯のU・Iターン促進

【視点⑤】
市民主体の健康づくりによる健康寿命の延伸

◎篠山市まち・ひと・しごと総合戦略 4つの基本目標

暮らしに結びついた創造産業を興す

日本遺産の魅力を活かし新しい人の流れをつくる

安心して豊かな暮らしを自分たちの手でつくる

ふるさとの豊かな環境の中で子育ての文化を育てる

製造業・サービス業など今ある産業の活力を興し雇用を増やすこと、企業誘致や起業の支援を行うこと、農業・林業等昔からある産業の担い手を確保し、地域の資源を維持していくことを通じて、U・Iターン者がしごとを創り出すことを応援し、これらすべてを篠山市民の暮らしに結び付いた「創造産業」として発展させることを目指します。

基本目標 1

暮らしに結びついた創造産業を興す

1

資源と人、物語がめぐる農業の育成

- ブランド力を活かした農産物の販路開拓
- 地域資源を活かした商品開発の推進
- 担い手の育成
- 都市住民の農とのかかわり促進

2

山の資源を活用したビジネス創出

- 山の資源の活用

4

多様な働き方やビジネス創出へのチャレンジ

- 多様な働き方づくり
- 起業支援

3

地域の仕事や職人技の継承

- 企業誘致による雇用増加
- 市内既存企業の振興による雇用増加
- 地元就労の拡大
- 伝統産業の振興・担い手育成
- 商業の振興・担い手育成

基本
篠山の希望を
—「篠山」だからこそ実現

1

小さな拠点の形成に向けた生活の仕組みづくり

- 公共交通の整備
- 地域の見守り体制づくり
- 高齢者や障がい者が安心して健康に暮らすための支援
- 一人一人を大切にするまちづくり

2

美しい景観や豊かな環境の保全と創造

- 美しいまちなみ景観の継承
- 豊かな自然の保全
- 新エネルギー・省エネルギーの普及

基本目標 4

安心して豊かな暮らしを自分たちの手で創る

3

自立的な地域づくり

- 自立した地域づくり組織への成長
- 災害・犯罪に強い地域づくり

地域の若者が流出し、集落構成員が高齢化する現状の中、地域での暮らしを支えあう仕組みづくりにより、住民がいきいき暮らせるまちづくりを推進することが求められています。将来的には、各地区が地区の人口に見合った、自立した地域づくりを営んでいけることを目指し、「小さな拠点」の整備に向けた生活の仕組みづくりをはじめ、美しいまちなみや豊かな自然環境の保全を通じて、住民が誇りを持って住み続けたいといえるまちを目指します。

地域の人口維持や活力の維持に向けては、通勤しやすい環境づくり等を通じて若者の転出抑制を図ることはもとより、日本遺産の認定を受けた篠山市の魅力を活かし、観光から「篠山ファン」を増やすことを通じて、移住・定住につなげるのが重要です。

着地型観光を通じて地域の賑わいや経済を活性化させまちを興すとともに、「篠山ファン」が関わり続けられる仕組みをつくっていき、移住・定住につなげる施策を展開します。

1

地域の伝統文化を活かした 着地型観光の推進

- 日本遺産を活かした観光まちづくり
- 外国人観光客の誘致
- 人材育成
- 交流促進
- 情報発信
- 観光客が長時間滞在するための取組

2

篠山に関わり続けやすい 体制の整備

- 「篠山ファン」等を定住につなげる仕組みづくり

3

交流人口を定住人口へ つなげるための取組

- 空き家活用
- 住もう帰ろう運動

基本目標 2

日本遺産の魅力を活かし
新しい人の流れを
つくる

理念
未来につなぐ
できる創造的な農村の幸せ—

2

しごとと子育ての両立

- 子育てのサポート体制充実
- 健康な子育てのための地域医療の充実
- 医療費の負担軽減
- 多子世帯の負担軽減

1

ふるさと教育のさらなる充実

- 学校・家庭・地域・行政で取り組むふるさと教育
- ふるさとの自然を愛する教育の推進
- ふるさと篠山の食育推進
- 就学・通学の援助

3

結婚・子育ての情報が 集まる場づくり

- 篠山市での結婚・子育てへの意識醸成
- 豊かな子育て環境のための連携体制づくり
- 親・子どものふれあい創出

基本目標 3

ふるさとの豊かな環境の中で
子育ての文化を育てる

結婚に対する価値観の多様化や、ワークライフバランスの難しさ、安定した雇用が不足しているという意識が、結婚や出産・子育てへの障壁になっています。子育て世代を金銭的、人的、精神的に支援することや、子育てができる働き方を促進します。市内外の人々に、篠山市で子どもを産み、篠山市の「子育て」を大切にふるさと教育のもと、「篠山市で子育てがしたい」、「篠山市で学びたい」と思ってもらえるまちになることを目指します。

先駆的プロジェクトについて

それぞれの基本目標に位置付けた具体的な取組のうち、本市の創生における先駆的な項目については、「先駆的プロジェクト」として、基本目標を横断しながら重点的に取り組みます。

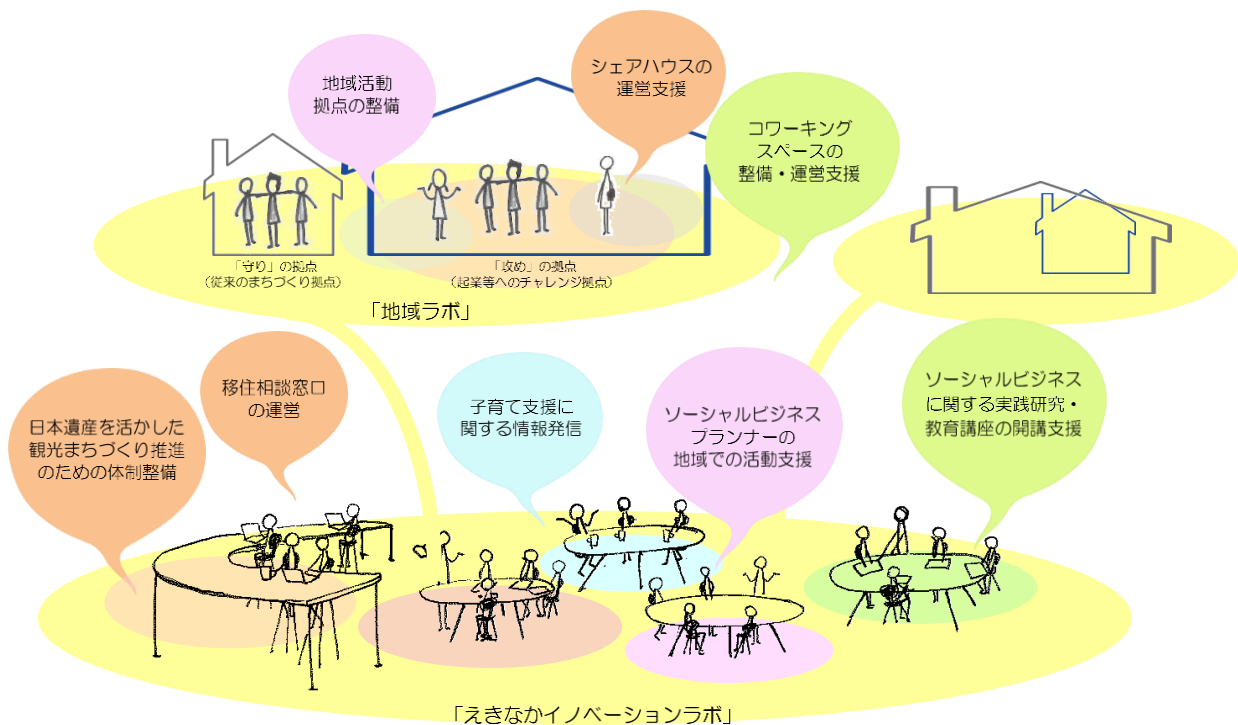
「先駆的プロジェクト」の推進に当たっては、人材育成拠点「えきなかイノベーション*ラボ」、および、地域資源を生かしたソーシャルビジネスのチャレンジの舞台となる「地域ラボ」を新たに整備します。

「えきなかイノベーションラボ」は、若者実践家の発掘と育成、起業・経営支援、地域活性活動の調査研究等を行う場として、本市の玄関口である篠山口駅構内に整備します。農業振興や観光振興、まちづくり、子育て支援など、総合戦略の基本目標を網羅する学びを得られる場とするとともに、若い世代をターゲットにした移住体験を提供する移住相談窓口や、着地型観光支援組織の取組の拠点としても位置付けます。

「地域ラボ」は、「えきなかイノベーションラボ」でソーシャルビジネスを学んだ実践家が活躍する場として、市内19地区における空きスペース等を改修し、オフィス等として整備します。最終的には、交通や医療、買い物等生活サービスの維持に関わる地域課題等に対応できる「小さな拠点」として発展させ、また地元の若者の起業マインドを呼び起こすきっかけをつくり、地域の活力維持につなげます。

「先駆的プロジェクト」の推進により、雇用のともなった移住・定住促進施策を展開し、起業後もビジネスプランナーの活動を支援することで、篠山の地域ブランドを活かした農林業の振興や観光まちづくり等、篠山市の強みを活かした創造産業の発展につなげます。

「えきなかイノベーションラボ」と「地域ラボ」の連携を通じた篠山市の地方創生



*イノベーション…今まで常識とされ、誰も疑いを持たなかったことに対して、多様かつ新たな見方や解決策を提供することで、新しい価値を生み出し、社会的に大きな変化を生み出すこと。

総合戦略の推進体制

地域の担い手である市民をはじめ、地域団体組織やNPO組織、民間事業者、多様な主体が行政との協働により、地域が将来にわたって持続的にあり続け、住民が希望と安心をもって暮らしていくためのまちづくりを推進します。

市民一人一人が自分の住む地域の将来を考え、小さくても「できること」からまちづくりの活動等に参画することにより、それぞれの幸せを実現することを通じて、地域の希望を未来につないでいくことが期待されます。行政は、市民等の活動を支援するとともに、協働を図り、様々な分野において、全庁的に相互連携を図りながら計画を推進します。